

シネマ・デ・アエル ×

国際交流基金アジアセンター

特別文化プログラム

映画『盆唄』より

© 2018 テレコムスタッフ

三陸国際芸術祭 2019

Road to Reconstruction and Regeneration
of Sanriku Area, Iwate and Asia

三陸とアジア、 復興と再生の旅路

2019年
3月16日[土]

3月17日[日]

今年度、国有形文化財の登録が決定した宮古市本町(もとまち)の旧東屋(あずまや)酒造店の蔵に設けられた、文化創造拠点「シネマ・デ・アエル」を舞台に、映画、アート、街づくり、食文化テーマに、豪華なゲストを迎えた交流プログラムで、三陸と東北、アジアと世界の復興と再生の旅路を共有します。どなたもお気軽にご参加ください。

会場：シネマ・デ・アエル (宮古市本町 東屋さんの蔵)

映画 4 作品上映！

「盆唄」「海を駆ける」「シアター・ブノンペン」「人生フルーツ」

復興と再生をめぐるゲストトーク

宮古市 ↔ 台北市 オンライン中継トーク

小池アミイゴ 絵画展 & ワークショップ

上映プログラム参加料金 500円から！ トーク&アートプログラム 無料！

映画／アート／まちづくり／食文化



CINEMA_上映プログラム (参加料:各回¥500、『盆唄』は¥1000)

復興と再生をテーマに、東北、アジア、世界の優れた映画作品を上映します。

『盆唄』 ① 3/16 13:30 ～ ② 3/17 13:30 ～

中江監督来場！スペシャルトーク付き 中江裕司監督/2018年製作/上映時間134分



©2018 テレコムスタッフ

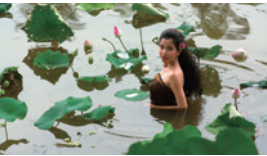
岩手県初上映！国境と世代を超え福島とハワイをつないだ、盆踊りを巡る話題の新作ドキュメンタリー

震災後の双葉町の人々は、先祖代々守り続けていた伝統「盆唄」消滅の危機に心を痛めていた。そんな中、100年以上前に福島からハワイへ移住した人々が伝えた盆踊りが「フクシマオンド」として現在も日系人に愛され続けていることを知る。自分たちの伝統を後世に伝えられる新たな希望を抱いた双葉町の人々は、盆唄を披露するべくマウイへ向かう。

2019年2月15日（金）よりテアトル新宿ほか全国順次ロードショー！
フォーラム福島、まちぽれいわきも同時公開！

『シアター・プノンペン』 ③ 3/16 17:00 ～

シネマトーク付き！ ソト・コーリーカー監督/2014年製作/上映時間105分



©2014 HANUMAN CO., LTD

映画への想い、破壊された文化の再生を描いた、カンボジアのニューシネマパラダイス

カンボジアの首都プノンペンに暮らす女子大生ソポンは、ある日、映画館で1970年代のボル・ポト政権下に作られた古い映画の存在と、そこに若き日の母が出演していたという事実を知る。しかし、母は自分で女優であったことを語ろうとしない。その映画をどうしても見たいと思うソポンは映画のフィルムを探し始め、ボル・ポト時代に蹂躪された母国の映画史を発掘していくことになる。

参加方法	参加料金	入場定員
上映当日シネマ・デ・アエルに直接お越しください。先着順でのご案内となります。開場は各プログラム開始の30～20分前です。（ご予約不可です）	上映プログラム各回500円（『盆唄』のみ1000円） トークプログラムは参加無料です。 トークプログラムのみのご参加も可能です。	満席の際は、入場制限がございます。 あらかじめご了承ください。 各回45名（先着順）

CAFE & MARKET_カフェ＆マーケット ③ 3/16 ～ 3/17



カフェ・デ・アエル
うららかな春の日差しが心地よいオープンカフェでオリジナルブレンドのコーヒーや各種ドリンクをお楽しみください。



大人の駄菓子コーナー
シアタープログラムで好評の“大人”の駄菓子コーナー。プログラムのお供にどうぞ。

アジアンカフェ

人気カフェ「温ハート」さんの出張カフェ、台湾フードなどアジアンメニューもご用意



※写真はイメージです

ノキシタガーデン ③ 各日 11:00 ～ 16:00

蔵の軒下で開催するミニマーケット。宮古タイでお出迎え

・アート&カルチャー系ブック「古本アエル堂」 ※ 出展内容は変更する可能性があります
・イカ王子のあたりめや鮭とば
・「もっきりしもへい」(地酒もっきりスタンド)
・産直品など



出店者募集！
ノキシタガーデンは現在出展料無料で実施しています。今回以外にも出店をご希望される方はプロジェクトまでお問い合わせください。

TALK_トークプログラム (参加無料)

ゲストを迎え、来場者とともにテーマを語り合います。

スペシャル・クロストーク ① ③ 3/16 15:45 ～

映画が描く、復興と再生の旅路



東日本大震災から8回目の春、抗えない大きな力の前に一度は倒れた東北や世界の人々は、どのように営みや文化の復興と再生の旅路を歩んできたのでしょうか。映画やアート、持続的な地域社会づくり…それぞれのスペシャリストのみなさんとともに、映画『盆唄』に描かれた人々の想いや文化、被災地域や東北の復興のこれからについて語り合います。

GUEST



中江 裕司（映画監督）

京都市に生まれ、その後沖縄に移住。92年、オムニバス映画『バイナッブル・ツアーズ』の1編を監督。同作品はベルリン映画祭フォーラム部門に選ばれた。99年には単独の長編映画『ナビィの恋』を監督。同作品もベルリン映画祭フォーラム部門に選ばれ、興行面でも成功を収めた。その後も劇映画とドキュメンタリーを交互に発表し、現在までに9本の映画を監督。『ホテル・ハイビスカス』(02)はベルリン映画祭キンダー部門に選ばれた。05年には、那覇市内の閉館になった映画館を「桜坂劇場」として復活させ、映画上映のみならず、ワークショップやライブ、市民講座も企画。沖縄文化の発信基地となっている。



寺本 耕一（復興庁参事官）

1992年建設省入省、国土交通省近畿地方整備局建政部長等を歴任し、現在は復興庁総合政策班の参事官として、「新しい東北」に関する事業を担当。



小池 アミイゴ（イラストレーター、画家）

1962年群馬県生まれ。CDジャケットや書籍、雑誌などの仕事多数。東日本大震災以降、東北の各地を巡り制作した作品は、個展「東日本」に結実している。池袋コミュニティカレッジにて絵のワークショップ「アミイゴ・イラストレーションクラブ」開講中。東京イラストレーターズソサエティ理事長。

→詳細は裏面に記載

ファシリテーター： 柳桁 一則（みやこ映画生協）

シネマトーク『海を駆ける』 ③ 3/16 11:50 ～

2004年のスマトラ沖地震で大きな被害を受けた、インドネシア・アチェ。映画『海を駆ける』が描いた東南アジアの今、日本との交流など、知られざる一面について掘り下げていきます。

GUEST



鈴木 勉（国際交流基金アジアセンター・文化事業第2チーム長）

国際交流基金に入社後、マニラ日本文化センター所長等を経て現職。日本と東南アジアとの文化交流や文化財保存プロジェクトなど担当。単著「フィリピンのアートと国際文化交流（文化とまちづくり叢書）」水曜社、共著「東南アジアのポピュラーカルチャー ～アイデンティティ・国家・グローバル化」他多数。

中嶋 エミー（宮古市在住、英会話教室オーナー）

ファシリテーター：大垣 隆義（シネマ・デ・アエル プロジェクト）

シネマトーク『シアター・プノンペン』 ③ 3/16 18:50 ～

苦しい暮らしの中、人々は映画に何を求めたのか。経済発展著しい今も文化破壊の爪痕が残るカンボジアに見る映画への想い、暮らしと文化の関わりに、様々な視点からスポットライトを当てていきます。

GUEST

鈴木 勉（国際交流基金アジアセンター・文化事業第2チーム長）

→プロフィールはシネマトーク『海を駆ける』に掲載しています。

ファシリテーター：岩田 和憲（アートディレクター）

スペシャル・クロストーク ② ③ 3/17 11:35 ～

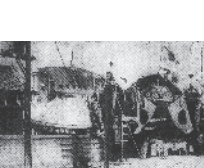
東屋文化財登録記念

「台北×宮古、歴史と文化を活かした再生のまちづくり」

400年前の大津波の後の復興計画として整備され、東日本大震災を耐え残った岩手県宮古市本町（もとまち）。その中心部、江戸時代より続き2018年度に国有有形文化財の登録が決定した商家・東屋を舞台に、歴史と文化を活かしたまちづくりを語り合います。さらに台北の長年閉鎖されていた市場を文化拠点にリノベーションした「新富町文化市場」会場とオンラインで繋ぎ、国や言葉を超えた交流を行います。（※ 台湾とのオンライン中継には通訳が入ります。）



文化財登録の決まった東屋



© 漢珍數位圖書股份有限公司



© 余松翰

戦前の新富町文化市場（左）と、現在（右）。

GUEST



林 承毅 cheng-yi takeshi lin（台北林事務所代表）

台湾政府関係法人コンサルタント機構、誠品書店、研究機構を経て独立。2015年体験デザインを中心とした林事務所を設立。台北路上観察学会会長、トレンド考現学専門家、台湾メディア、雑誌にコラムを執筆し、台湾社会文化のオピニオンリーダーとして活動。



山崎 友子（「災害文化研究会」代表、岩手大学名誉教授）

長崎県生まれ。2000年より岩手大学教育学部で教員養成。東日本大震災後、岩手大学地域防災研究センター、災害文化部門長を兼務。2018年3月定年退官後「災害文化研究会」代表・岩手大学名誉教授。震災関連の著書：『おばあちゃんの紙しばいつなみ』監修・英訳（産経新聞出版、2011年）、『震災からの教育復興―岩手県宮古市の記録』分担執筆（悠光堂、2012年）他



橋本 久夫（月刊みやこわが町編集長、宮古市議会議員）

創刊40年を数える「みやこわが町」の編集者として地元の歴史文化を創出する取材活動を行っている。また特定非営利法人いわてマリニフィードの理事長として青少年育成や国際交流のほか「ひとづくり」「まちづくり」に取り組んでいる。2011年東日本大震災後には災害FMラジオ局を立ち上げ、被災者等市民に各種情報を発信。

ファシリテーター：平松 伸一郎（編集者/みやこてっぱんマップ編集長）

シネマトーク『盆唄』 ③ 3/17 15:30 ～

映画『盆唄』また、三陸国際芸術祭でもあらためて共有された伝統芸能や伝統文化の「力」。一方、伝承に向けた課題も多く指摘されています。宮古、福島、沖縄、それぞれの地域の取り組みを通して遠望を語り合います。

GUEST

中江 裕司（映画監督）

→ プロフィールはスペシャル・クロストーク①に掲載しています。



坂田 雄平（三陸国際芸術祭プログラムディレクター、宮古市民文化会館プロデューサー）

NPO法人いわてアートサポートセンターにて、宮古市民文化会館プロデューサー、岩手県文化芸術コーディネーター（沿岸地域）を務めるほか、（一財）地域創造現代ダンス活性化事業コーディネーター、酒田市アートコーディネーター、三陸国際芸術祭のプログラムディレクター。2003年桜美林大学舞台芸術研究所。07年財団法人地域創造。12年北九州芸術劇場を経て現職。

ファシリテーター：有坂 民夫（シネマ・デ・アエル プロジェクト）

小池アミイゴ アートワークショップ

オープニングセッション ③ 3/17 12:30 ～

誰でも出来る表現で絵の面白さや表現することの喜びに触れます。

講師：小池 アミイゴ（イラストレーター）

→ プロフィールはスペシャル・クロストーク①に掲載しています。

ART_アートプログラム（入場、参加無料）

小池アミイゴさんによる絵画展とワークショップを開催します。

PROFILE

小池 アミイゴ（イラストレーター、画家）



1962年群馬県生まれ。長沢節主催のセツモードセミナーで絵と生き方を学ぶ。1988年よりフリーのイラストレーターとしての活動をスタート。CDジャケットや書籍、雑誌など仕事多数。DJとして唄のための時間OurSongsを主催、デビュー前夜のclammbonやハナレグミなど多くのアーティストの実験現場として機能。現在は日本の各地で暮らす人と共に、ライブイベントやワークショップを企画開催。

2011年3月11日以降、東北の各地を巡り作品を制作、個展「東日本」として青山のspace yuiで2012年、14年、15年、17年、19年に開催。17年4-7月、熊本をつなぎ美術館で展覧会「東日本より熊本へ」開催。17年11月-2月福島芸術計画×ASTT2017福島県柳津町子どもアートプロジェクト。19年2月17年11月-2月福島芸術計画×ASTT2017福島県昭和村子どもアートプロジェクト。小山薫堂氏とのコラボレーション「旅する日本語2018」を羽田空港で展開中。絵本「とうだい」(福音館書店)の作画、「うーこのてがみ」(角川書店)など。池袋コミュニティーカレッジにて絵のワークショップ「アミイゴ・イラストレーションクラブ」開講中。本年度より東京イラストレーターズソサエティ(TIS)理事長就任。

作品展「東日本」

● 3/16 ～ 3/17

会場：ロビー内 ギャラリースペース



宮古湾 © 小池アミイゴ

震災後、アミイゴさんが東北の各地を巡るなかで制作した絵画を展示します。

アミイゴさんからのコメント

2011年3月11日以降5回目となる「東日本」と名付けた展覧会です。「あれから8年の春」に絵に出来ることはこれからが本番と考えています。東北から始まり、知床や天草へ繋がる、人との出会いが見せてくれた風景や花の絵。

アートワークショップ

● 3/17 13:00 ～ 16:00（当日参加可）

会場：ノキシタガーデン・オープンスペース



2017年3月に当会で行われたワークショップの様子

小池アミイゴさんと一緒に絵を描く「親子ワークショップ」です。小さなお子さんからじーちゃんばーちゃんまで参加可能です。画材等はこちらでご用意します。汚れても良いオシャレでご参加ください。参加費無料です。

SCHEDULE_スケジュール

3/16 sat

09:30 開場

- *A 10:00 映画『海を駆ける』上映
11:50 シネマトーク『海を駆ける』 ゲスト：鈴木勉さん、中嶋エミーさん
- *B 13:30 映画『盆唄』上映
15:45 スペシャルクロストーク ①
「映画が描く復興と再生の旅路」
登壇者：中江裕司さん、寺本耕一さん、小池アミイゴさん
- *C 17:00 映画『シアターブノンペン』上映
18:50 シネマトーク『シアターブノンペン』 ゲスト：鈴木勉さん

3/16 sat ～ 17 sun 終日開催

小池アミイゴ絵画展「東日本」 会場：ロビー内 ギャラリースペース

カフェ & マーケット 会場：蔵入口のオープンスペース（マーケットは11時から16時）

3/17 sun

09:30 開場

- *D 10:00 映画『人生フルーツ』上映 日本と台湾で同時上映！
11:35 スペシャルクロストーク ② 日本と台湾をオンライン中継！
東屋文化財登録記念
「台湾×三陸 歴史と文化を活かしたまちづくり」
登壇者：山崎友子さん、橋本久夫さん、林承毅さん
- 12:30 アートワークショップ オープニングセッション
13:00 小池アミイゴ アートワークショップ（～16:00）
- *E 13:30 映画『盆唄』上映
15:30 シネマトーク『盆唄』 ゲスト：中江裕司さん、坂田雄平さん
- 16:30 映画『人生フルーツ』上映

* A,B,C,D,Eは是非セットでご参加ください。

シネマ・デ・アエルとは



「シネマ・デ・アエル」は、沿岸唯一の常設映画館「みやこシネマライン」の2016年の閉館を受け、有志で取り組む文化創造拠点運営プロジェクト、および特設シアター空間「シネマ・デ・アエル」の名称です。
また、1611年に発災した慶長の津波災害の後の復興の都市計画としての歴史を持ち、2011年の津波災害を耐え残った、本町地区の歴史と地域文化を活用したリノベーションプロジェクト「ヒガシ・デ・アエル」のシンボルプロジェクトです。
(ヒガシ・デ・アエルHP: higashideaeru.com)



国有形登録文化財旧東屋酒店

- 名称（建設年代）
旧東屋（あづまや）酒店店舗兼主屋（明治後期/大正前期・昭和48改修）
旧東屋酒店酒蔵（江戸末期/昭和28頃改修）
旧東屋酒店酒蔵（江戸末期）

● 特徴等

旧市街中心部にある文政7年（1824）創業の元造り酒屋。主屋は街路に西面して建つ入母屋（いりもや）造り妻入りの二階建てで、正面は北端の座敷部分を見下ろす（したみいた）張りとする以外は開口を広く取り、繊細な格子を並べる。主屋背面に土蔵造り平屋建ての酒蔵、主屋の北側に土蔵造り二階建ての質蔵が並び建ち、旧市街の歴史的景観を形成している。（文化庁：登録有形文化財（建造物）の登録に関する発表資料 2018年11月16日より抜粋）

ACCESS_会場

シネマ・デ・アエル（東屋さんの「蔵」）
〒027-0089
岩手県宮古市本町2-2

駐車場について

お車でご来場の方は、東屋駐車場に入り、シネマ・デ・アエル運営スタッフにお声がけください。駐車ステッカーをお渡しします（参加プログラム+1時間まで無料です）。満車の場合は近隣の駐車場（有料）をご案内いたします



CONTACT_参加方法&お問合せ

- 参加方法＝直接会場にお越しください。事前申込不要です。
※ 上映およびトークプログラムの定員は各回45名です。（各回入替制です）
※ 各プログラム先着順（予約不可）です。
※ 満席の際は、入場制限がございます。あらかじめご了承ください。
- お問合せ＝シネマ・デ・アエル プロジェクト（担当：有坂）
cinema.de.aeru@gmail.com
https://www.facebook.com/cinema.de.aeru/
※ プログラムや実施時間等は諸都合により変更する場合もございます。最新情報はシネマ・デ・アエルのHPまたはFBページにてご確認ください。

主催：シネマ・デ・アエルプロジェクト、国際交流基金アジアセンター／後援：宮古市、宮古市国際交流協会／協力：三陸国際芸術推進委員会、NPO法人ジャパン・コンテンツポラリ・ダンス・ネットワーク、復興庁、東屋不動産、ヒガシ・デ・アエル準備事務局、災害文化研究会、みやこ映画生協、三陸みらいシネマパートナーズ、てっぱん釜石、林事務所、カフェ温心

シネマ・デ・アエルのWebサイト
https://cinemadeaeru.wixsite.com/cinema-de-aeru
国際交流基金アジアセンターのWebサイト
https://jfac.jp/